

# 第44回伊勢湾オープンヨットレース大会

～ ディンギーの部帆走指示書 ～



# ディンギーの部帆走指示書

## 1. 競技方法

2020年伊勢湾オープンヨットレースヤードスティックナンバーによるハンディキャップレースとする。

## 2. 適用規則

2.1 セーリング競技規則 2017～2020 (RSS) に定義された規則を適用する。ただし、これらの規則等のうち、本帆走指示書によって変更されたものを除く。

2.2 付則Pを適用する。

2.3 付則P 2を次のとおり変更する。

付則P 1に基づくペナルティーを課せられた場合、艇のペナルティーを「1回転ペナルティー」とする。ペナルティーを履行しない場合には、その艇は審問なしに失格とされなければならない。1回転ペナルティーとは同一方向にタック1回、ジャイブ1回を速やかに行うことを言う。

## 3. マーク及びコース

3.1 コースは津ヨットハーバー沖にて下図のとおりとする。

3.2 Aクラス (実線コース)

スタート→①→②→③→②→③→フィニッシュ

3.3 Bクラス (点線コース)

スタート→①→②→③→フィニッシュ

3.4 変更マークは、オレンジ色と緑色の横縞模様の俵型ブイとする。

## 4. クラス旗

4.1 Aクラス…国際数字旗1

4.2 Bクラス…国際数字旗2

## 5. スタート及びフィニッシュの方法

5.1 スタート信号は、次の通りとする。

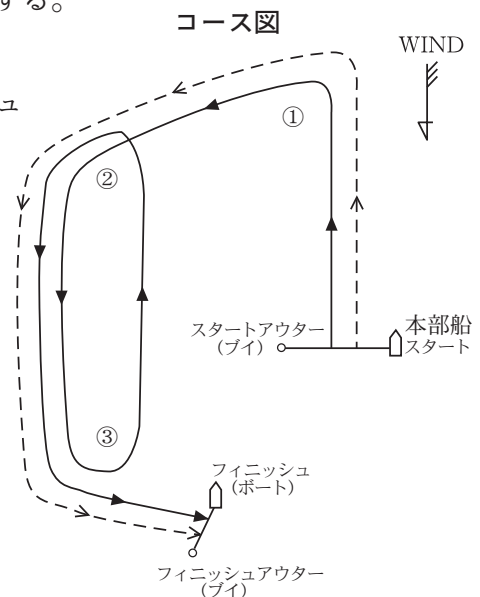
(予 告) スタート5分前…クラス旗展開と音響信号1声

(準 備) スタート4分前…準備信号旗掲揚と音響信号1声

(1分前) スタート1分前…準備信号旗降下と長音1声

(スタート) …クラス旗降下と音響信号1声

5.2 スタートラインはオレンジ旗を掲げた本部船のマストとスタートアウトブイ (オレンジ色俵型) を結ぶラインとする。



- 5.3 スタート信号後10分を経過した後はスタートしてはならない。
- 5.4 フィニッシュラインは、青旗を掲げたフィニッシュボートのポールとフィニッシュアウトマーク（オレンジ色の俵型）を結ぶラインとする。

## 6. 得点

- 6.1 2020年伊勢湾オープンヨットレースヤードスティックナンバーにより下記の式による修正タイムで順位を決し、附則A 4.1 低得点方式を適用する。  
ただし、特殊な艇については、レース委員会でハンディを決める。

$$\frac{\text{所要タイム (秒)}}{\text{ヤードスティックナンバー}} \times 100 = \text{修正タイム}$$

- 6.2 各ヨットの総得点は成立したレースにおける得点の合計とする。
- 6.3 修正時間が同じ場合には、伊勢湾オープンヨットレースヤードスティックナンバーの大なるものを上位とする。

## 7. タイムスケジュール

8:30 出艇申告受付

10:00 場所：管理棟前

10:25 予告信号

クラス旗を展開

10:30 第1レーススタート。

第1レース終了後、第2レースを行う。

15:00 表彰式

◎A、Bクラス共に、13:00以降のスタートを行わない。

◎レースが間もなく始まることを艇に注意喚起するために、予告信号を発する最低5分以前にホーン1声とともにオレンジ色のスタートライン旗を掲揚する。

## 8. リコール

- 8.1 リコール艇があった場合は、ホーン1声を発し、X旗を掲げる。
- 8.2 リコール艇は、各艇の責任において復帰するものとする。
- 8.3 ゼネラルリコールの場合は、本部艇に第1代表旗を掲げ、ホーン2声を発する。新しいスタートは第1代表旗の降下と共にホーン1声を発し、1分後に予告信号を発する。

## 9. 延期信号

スタート時刻を延期する場合は、本部船にAP旗を掲げ、ホーン2声を発する。

AP旗の降下は新しいスタートの6分前とし、ホーン1声、その1分後に予告信号を発する。

## 10. コース短縮

コース短縮を行う時は、先頭艇が未回航のマークにてフィニッシュする。

この場合、ホーン2声、該当クラス旗とS旗を展開する。

## 11. タイムリミット

スタート後60分とし、ホーン1声を発する。

## 12. 申告

12.1 出艇申告、帰着申告は、艇長の署名をもって行う。

12.2 リタイヤ及び引き続き行われるレースに出走しない艇は、レース委員会にその旨を伝えなければならない。

## 13. 抗議

13.1 抗議をしようとするヨットは、最初の適当な機会に相手艇に伝えるとともにフィニッシュに際してフィニッシュボートにアピールし、確認を受けなければならない。

13.2 抗議書の提出は、最終レース終了後60分以内に陸上本部に提出すること。

## 14. 安全

14.1 全ての乗員は、必ずライフジャケットを着用しなければならない。

14.2 救助について、救助艇は、レース艇全体の安全を期するため、レース中乗員の救助を優先し、沈艇の回収は後まわしにする。その際の艇の破損については一切責任を負わない。

## 15. 責任の所在

15.1 本大会のレース委員会は、人員及び物件に対する全ての損害の責任を負わない。

参加選手は、自己の責任において参加申込みを行い、一切の責任は参加選手個人に帰属する。

15.2 本大会のレース委員会は、緊急地震速報等が発令され災害等の恐れがある場合には、各サポート艇から選手に連絡する。その如何なる責任も負わない。また、避難についての責任は艇長の責任である。

## 16. ゴミの処分

レース艇からのゴミの投棄を禁ずる。

# ヨットレース入門

## 1. フラッグ

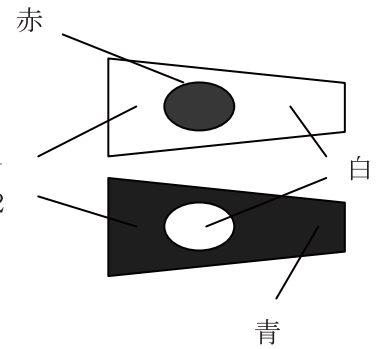
### ① スタート時に使用するフラッグ

5分前 クラス旗 展開

ディンギーの部

Aクラス：国際数字旗1

Bクラス：国際数字旗2



4分前 P旗展開

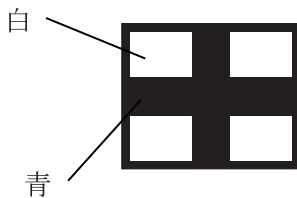


1分前 P旗降下



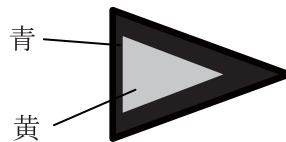
スタート クラス旗降下

### ② スタート時・リコール艇あり



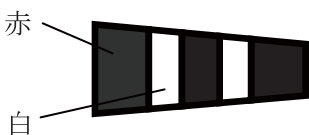
X旗展開

### ③ スタート時・ゼネラルリコール



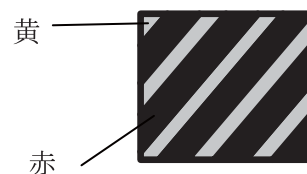
第1代表旗展開

### ④ スタート延期



回答旗 (AP旗) 展開

### ⑤ ライフジャケット着用

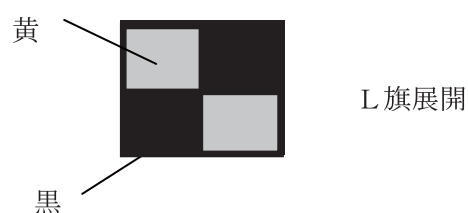


Y旗展開

⑥ コース短縮



⑦ 声の届く範囲に集まれ



⑧ 次のマーク位置変更



## 2. レーシングルール（JSAF会員手帳より抜粋）

### ① 基本原則

セーリング・スポーツの競技者は、スポーツマンシップにのっとり規則を守り、これに違反した場合は、速やかにペナルティーを履行するか、またはリタイアする事を原則とする。

### ② 10個の守るべき競技規則（ヨット競技10戒）

- 1) ポート艇はスタボード艇を避ける
- 2) 風上艇は風下艇を避ける
- 3) 後ろの艇は前にいる艇を避ける
- 4) タックやジャイブする艇は他艇を避ける
- 5) 自分が有利でも衝突を避ける
- 6) 航路を変更するときは、他の艇に避ける時間を与えよ
- 7) マークルームの内側は、マーク回航のルームをもらう権利がある
- 8) 後進艇やレース中でない艇は、レース中の艇を避ける
- 9) 規則に違反したらペナルティーを履行する
- 10) プロテスト・ルームで長時間過ごすより、進路をゆずる方がずっとよい

## 3. 安全とマナー

レースの参加、またレースの中止の決定は、各参加艇が自らの責任で決定するものです。

AP旗やN旗を使ってのレース中止は運営側での判断ですが、初心者の場合、運営側ではレース続行に問題ないと思っている風域でも既に自分の限界を超えてしまうことも考えられます。

天候の予測を常に行い、早め早めにレースを中止してリタイアする決断をすることも大切です。

リタイアして港に戻る時は、レース委員会にリタイアすることを注げて下さい。

最後に運営スタッフはボランティアで行っています。

レース海面についたら 『お願いします!!』

レースを終了したら 『有難うございました!!』 と声をかけましょう!!

## 2020年伊勢湾オープンヨットレースヤードスティックナンバー

No.	ク ラ ス 名	Y N	No.	ク ラ ス 名	Y N
1	水 中 翼 モ ス	4 9	26	F J	9 4
2	ト ー ネ ー ド	6 2	27	ヤ マ ハ 1 5	9 5
3	ナ ク ラ 5 . 2	6 7	28	ウ イ ン ド コ ー ル	9 5
4	F D	7 5	29	シ カ ー ラ	9 8
5	5 0 5	7 7	30	レ ー ザ ー ラ ジ ア ル	9 8
6	国 際 1 4	7 7	31	シ ー ホ ッ パ ー S R	9 9
7	ホ ビ ー 1 6	7 8	32	ウ イ ン ド ジ ョ イ	9 9
8	ベ ス ト ウ ェ イ ト 1 4	8 1	33	ヨ ー ロ ッ パ	1 0 0
9	4 7 0	8 3	34	K 4 2 0	1 0 0
10	ホ ビ ー 1 4	8 4	35	シカ-ラ (ハーバーレンタル艇)	1 0 2
11	セーリング・スピリッツ	8 4	36	レーザーラジアル (ハーバーレンタル艇)	1 0 2
12	シ ー ド ス ポ ー ツ	8 6	37	W I N D R I D E R	1 0 5
13	K 1 6	8 6	38	Y 1 5	1 0 5
14	パ シ フ ィ ッ ク 14	8 6	39	レ ー ザ ー 4 . 7	1 0 5
15	フ ェ イ ア ボ ー ル	8 6	40	ミ ラ ー 1 4	1 1 0
16	テ ー ザ ー	8 7	41	シ ー マ ー チ ン	1 1 2
17	シ ー ホ ー ス	8 7	42	ミ ニ ホ ッ パ ー	1 1 3
18	ス ナ イ プ	9 0	43	風 ぐ る ま	1 1 3
19	ウ ィ ン ド サ ー フ ィ ン	9 0	44	ト ッ パ ー	1 1 8
20	モ ス	9 2	45	ア ク ア ミ ュ ー ズ	1 2 0
21	4 2 0	9 0	46	A 級 デ ィ ン ギ ー	1 2 0
22	シ ー ラ ー ク	9 3	47	ミ ラ ー	1 2 9
23	カ シ オ ペ ア	9 3	48	ハンザクラスディンギー-303	1 3 0
24	レ ー ザ ー ス タ ン ダ ー ド	9 4	49	O P	1 4 4
25	シ ー ホ ッ パ ー	9 4	50	ハンザクラスディンギー-2.3	1 5 6

## 伊勢湾オープンヨットレース歴代優勝者・優勝艇

第1回	1977年	佐藤三郎	・	五十嵐智子	(470)
第2回	1978年	伊藤広和	・	田中謙二	(F J)
第3回	1979年	鈴木隆司	・	橋爪逸留	(スナイプ)
第4回	1980年	佐藤三郎	・	沖田稔	(F D)
第5回	1981年	桑原浩司	・	藏元克明	(F J)
第6回	1982年	熊谷勝秀	・	前田幸則	(470)
第7回	1983年	早崎弘泰	・	中西健嘉	(スナイプ)
第8回	1984年	吉田友明	・	吉沢彰規	(国際14)
第9回	1985年	河野史嗣	・	丹羽直樹	(470)
第10回	1986年	山口藤夫		(ボードセーリング)	
第11回	1987年	藏田貴志		(ボードセーリング)	
第12回	1988年	藏田貴志		(ボードセーリング)	
第13回	1989年	脇永達也		(レーザー)	
第14回	1990年	藏田貴志		(ボードセーリング)	
第15回	1991年	稲葉高広	・	佐々木政人	(スナイプ)
第16回	1992年	村田基佳	・	岡谷峰郎	(スナイプ)
第17回	1993年	村田基佳	・	藤井隆行	(スナイプ)
第18回	1994年	尾林茂昭	・	田中耕二	(シカーラ)
第19回	1995年	三島良介	・	中島圭一	(470)
第20回	1996年	三島良介	・	中島圭一	(470)
第21回	1997年	尾林茂昭	・	多中紀友	(シカーラ)
第22回	1998年	丹羽直樹	・	三島良介	(470)
第23回	1999年	三島良介	・	中島圭一	(470)
第24回	2000年	尾林茂昭	・	多中紀友	(シカーラ)
第25回	2001年	尾林茂昭	・	岡本崇裕	(シカーラ)
第26回	2002年	笠見彰		(レーザーラジアル)	
第27回	2003年	尾林茂昭	・	岡本崇裕	(シカーラ)
第28回	2004年	山本晴三		(レーザー)	
第29回	2005年	長谷川哲子		(レーザーラジアル)	
第30回	2006年	藤野隼		(レーザーラジアル)	
第31回	2007年	笠見彰		(レーザーラジアル)	
第32回	2008年	笠見彰		(レーザーラジアル)	
第33回	2009年	竹内星弥	・	原田亜希子	(セーリングスピリッツ)
第34回	2010年	笠見彰		(レーザーラジアル)	
第35回	2011年	(Aクラス) 笠見彰		(レーザーラジアル)	
		(Bクラス) 行方美由		(アクセスディンギー)	
第36回	2012年	(Aクラス) 河原由佳		(シーホッパーSR)	
		(Bクラス) 西山和仁		(アクセスディンギー)	



第37回	2013年	(Aクラス) 河原由佳 (Bクラス) 安南帆起	(レーザーラジアル) ( O P )
第38回	2014年	(Aクラス) 大成賢二 (Bクラス) マークダグラスミス	(レーザーラジアル) (ハンザクラスディンギー)
第39回	2015年	(Aクラス) 藤野隼・友田崇 (Bクラス) 若林幸輝	( 4 7 0 ) ( O P )
第40回	2016年	(Aクラス) 谷口龍帆・西田侑世 (Bクラス) 藤原沙耶	( 4 2 0 ) ( O P )
第41回	2017年	(Aクラス) 太田タケル (Bクラス) 服部友賀	(レーザー4.7) ( O P )
第42回	2018年	(Aクラス) 鶏内あゆみ・岩田紗希 (Bクラス) 吉岡晴月	(スナイプ) ( O P )
第43回	2019年	(Aクラス) 笠見彰 (Bクラス) 吉岡晴月	(レーザーラジアル) ( O P )

### 新型コロナウイルス感染予防について

1. 参加者は厚生労働省が公表する「新しい生活様式」を遵守すること
2. マスク等感染防止対策に必要なものは参加者自身で準備すること
3. 新型コロナウイルス感染の疑いがある場合は大会に参加することができない
4. 大会当日参加者は自宅を出るときに体調確認(検温等)を実施し異常があれば大会に参加することができない
5. 大会後2週間以内に新型コロナウイルス感染症が発症した場合は、主催者に速やかに報告すること
6. 厚生労働省が提供する新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCoA)を参加者はダウンロードすること